

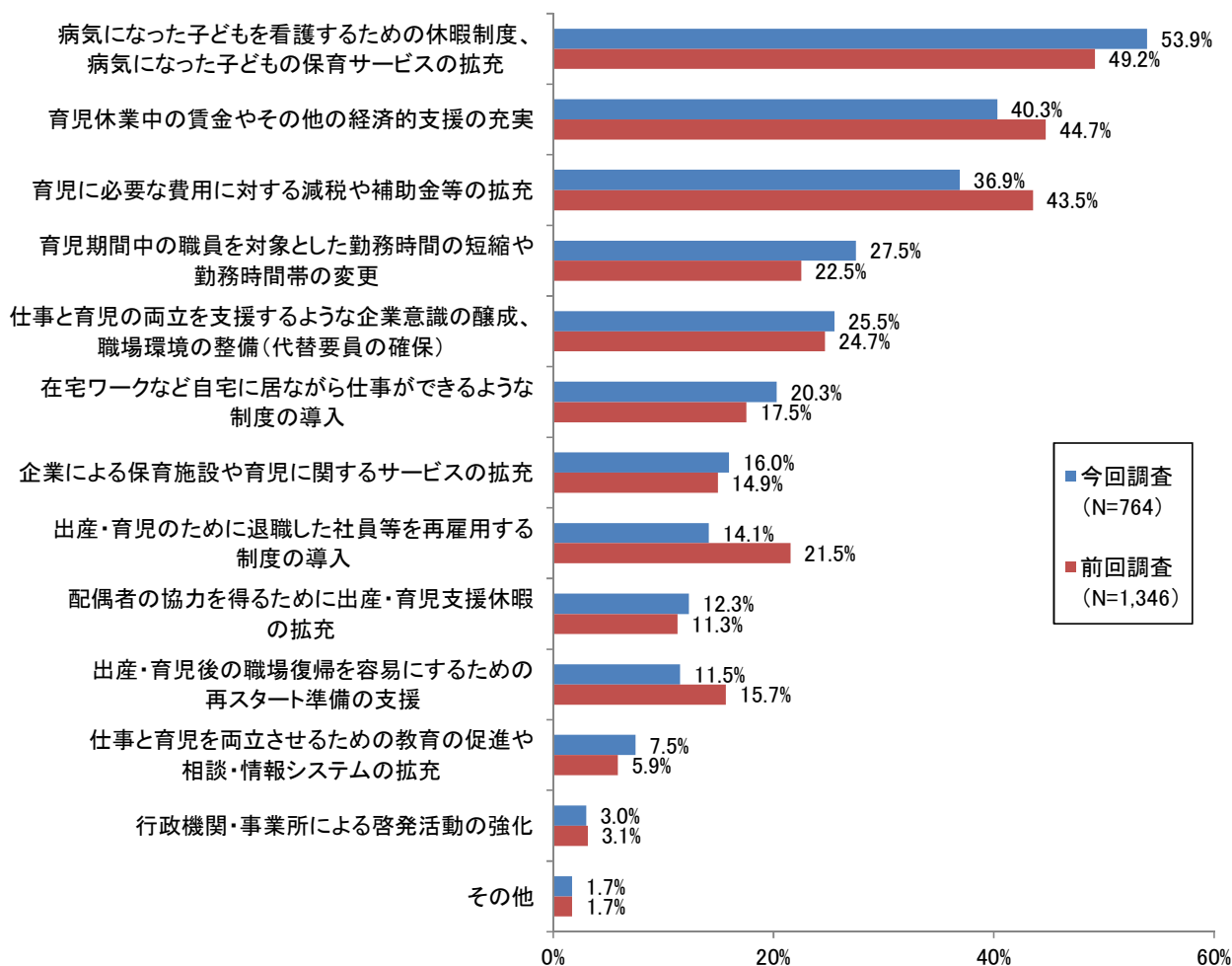
3 仕事と子育ての両立に関すること

○仕事と子育てを両立させるための取組

「病気になった子どもを看護するための休暇制度、 病気になった子どもの保育サービスの拡充」	…	53.9%
「育児休業中の賃金やその他の経済的支援の充実」	…	40.3%
「育児に必要な費用に対する減税や補助金等の拡充」	…	36.9%

働く人が仕事と子育てを両立させていくために、どのような取組を推進することが必要と考えるかについては、「病気になった子どもを看護するための休暇制度、病気になった子どもの保育サービスの拡充」（53.9%）と回答した人の割合が最も高く、以下「育児休業中の賃金やその他の経済的支援の充実」（40.3%）、「育児に必要な費用に対する減税や補助金等の拡充」（36.9%）などの順となっています。

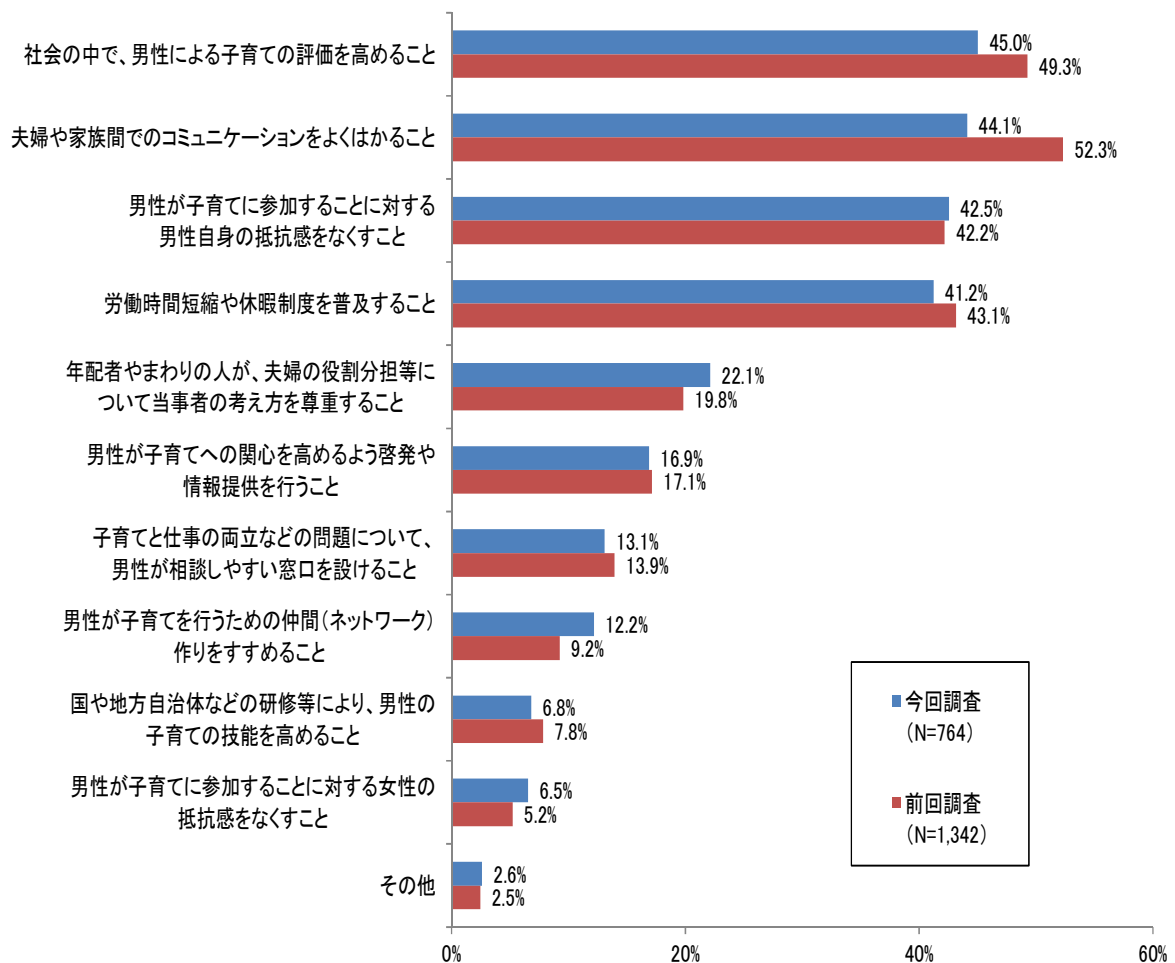
前回調査時と比べると、「育児休業中の賃金やその他の経済的支援の充実」、「育児に必要な費用に対する減税や補助金等の拡充」などの項目が下回る一方、「病気になった子どもを看護するための休暇制度、病気になった子どもの保育サービスの拡充」、「育児期間中の職員を対象とした勤務時間の短縮や勤務時間帯の変更」などの項目が上回っています。



○男性の育児参加のために必要なこと		
「社会の中で、男性による子育ての評価を高めること」	…	45.0%
「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」	…	44.1%
「男性が子育てに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」	…	42.5%

男性が女性とともに子育てに積極的に参加するために必要なことについては、「社会の中で、男性による子育ての評価を高めること」（45.0%）と回答した人の割合が最も高く、以下「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」（44.1%）、「男性が子育てに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」（42.5%）などの順となっています。

前回調査時と比べると、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」、「社会の中で、男性による子育ての評価を高めること」などの項目が下回る一方、「男性が子育てに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」、「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等について当事者の考え方を尊重すること」などの項目が上回っています。



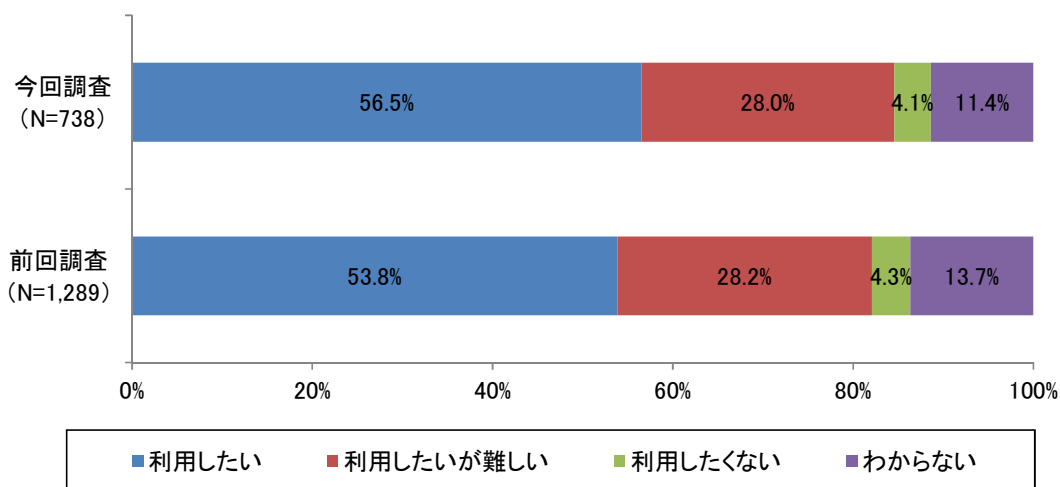
○育児休業制度の利用意向

「利用したい」 … 56.5%
 「利用したいが難しい」 … 28.0%

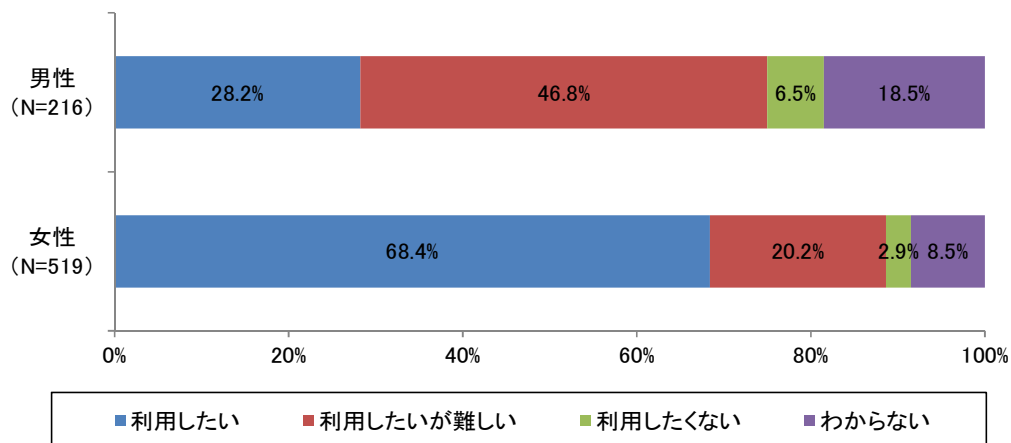
育児休業制度を利用したいと思うかどうかについては、「利用したい」（56.5%）と回答した人が半数以上を占め、「利用したいが難しい」（28.0%）を含めると、8割以上の人が育児休業制度を利用したいと考えています。

また、男女別で見ると、「利用したい」と回答した女性の割合（68.4%）が男性（28.2%）を大きく上回っています。一方、「利用したいが難しい」と回答した男性の割合（46.8%）が女性（20.2%）を大きく上回っています。

全体



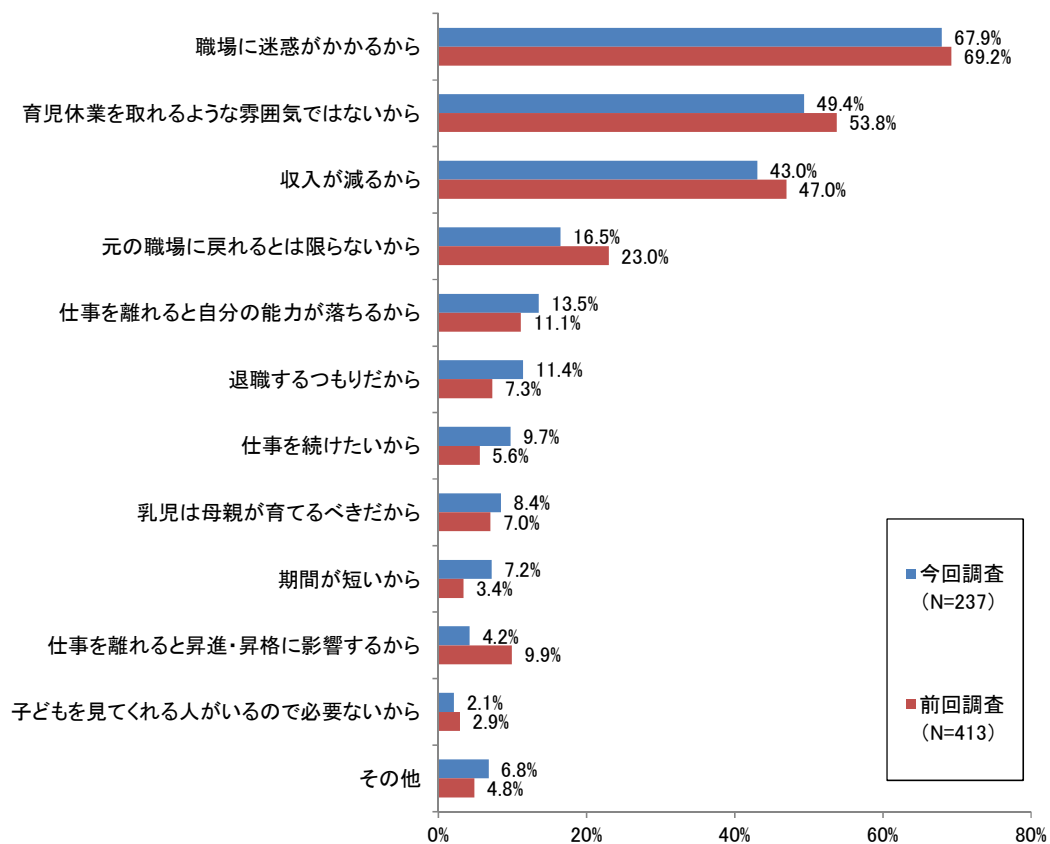
男女別



○育児休業制度を利用したくない理由		
「職場に迷惑がかかるから」	…	67.9%
「育児休業を取れるような雰囲気ではないから」	…	49.4%
「収入が減るから」	…	43.0%

育児休業制度を「利用したいが難しい」又は「利用したくない」と回答した人の理由は、「職場に迷惑がかかるから」（67.9%）と回答した人の割合が最も高く、以下「育児休業を取れるような雰囲気ではないから」（49.4%）、「収入が減るから」（43.0%）などの順となっています。

前回調査時と比べると、「職場に迷惑がかかるから」、「育児休業を取れるような雰囲気ではないから」などの項目が下回る一方、「仕事を離れると自分の能力が落ちるから」、「仕事を続けたいから」などの項目が上回っています。



○男性の育児休業制度取得に対するイメージ

「可能な限り取得した方がよい」	…	45.0%
「男性も取得した方がよいが、主に女性が取得することはやむを得ない」	…	39.0%

男性が育児休業を取得することについては、「男性も可能な限り取得した方がよい」（45.0%）と回答した人の割合が最も高く、次いで「男性も取得した方がよいが、主に女性が取得することはやむを得ない」（39.0%）となっています。

前回調査時と比べると、大きな差はみられません。

